

実証成果 (株)秋田食産ほか (秋田県美郷町ほか)

実証課題名 サキホコレ! ローカル5G とリアルメタバースを活用した秋田県産地モデル実証

経営概要 223a(イチゴ 60a、他 163a) うち実証面積 31.2a(イチゴ 25.2a、他 6a)



東北

導入技術 ①遠隔技術指導 ②イチゴの収穫・運搬ロボット ③リアルメタバースによる遠隔ショッピング ④経営管理システム等 ⑤生産者と販売所連携アプリ



目標 栽培作業時間15%削減、収量30%向上、道の駅での農作物売上25%増 など

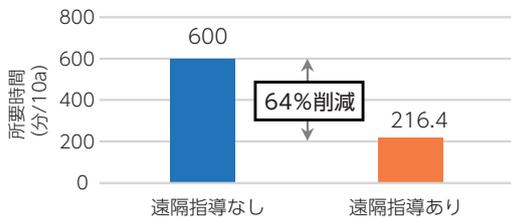
1 目標に対する達成状況

- 遠隔技術指導により栽培作業時間を新規就農者で64%削減、熟練者で15.4%削減し目標達成
- イチゴ収穫・運搬ロボットにより収穫時間を23%削減及びロス率92%削減
- 遠隔ショッピングにより道の駅売上げR3年度比(導入前)14%増加
- 地下水活用のクラウン温度制御により10aあたり収量27.5%増、光熱費30%削減、除雪作業時間を357時間削減
- スマホ活用の生販連携アプリにより農作物の売上げR4年比34%増加し目標達成
- 経営管理システムにより管理作業時間を38%削減

2 導入技術の効果

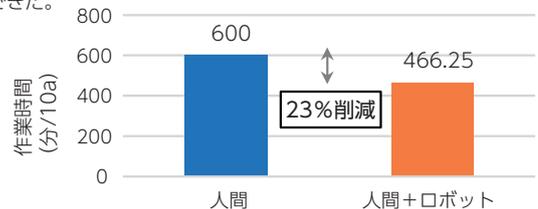
遠隔技術指導

- 新規就農者が指導者から指導を受ける場合、指導を受けるために必要な生産者の所用時間を64%の効率化。



イチゴ収穫・運搬ロボット

- ロボットを人の収穫と並行して利用することで、人だけで収穫するより23%の時間を削減することができた。また、ロス率も92%削減できた。



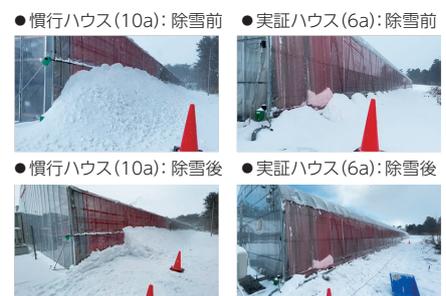
遠隔ショッピングアプリ

- 前々年の8月~1月で比較をすると売上合計は14%増加。



クラウン温度制御

- 収量の増加だけでなく、除雪作業についても357時間/10a削減することができた。



3 事業終了後の普及のための取組

- 実証対象作物であるイチゴに関しては、本実証を通じて2つの協議会の立ち上げ等を行い、新規就農者でも、安定した栽培・販路獲得ができるように、農業経営が可能になるモデルを検討している。
- 秋田食産の近隣自治体にて新規就農した方も協議会へ加入し、夏秋イチゴの栽培を次期作(R6年度)からスタートしたり、非農業法人である民間企業の参入等も進んでいたりと、秋田県内全体を通して産地化に向けた動きが進んでいて、実証機器のシェアリングを活用した作業効率化を行っていく予定。

問い合わせ先 株式会社NTTアグリテクノロジー (Email : contact@ntt-agritechnology.com)